

障害者スポーツの普及・振興を支える人材の在り方について（案）

＜現状と課題＞

- 障害のある人の運動・スポーツ活動への参画の促進、特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行を進める中で、より身近な地域で障害者スポーツを実施する機会を増やしていくことが必要となると想定されるが、その障害者スポーツ指導の主たる担い手であるパラスポーツ指導員は近年増えておらず、何らかの方法で増やしていく必要がある。
- 日本パラスポーツ協会のパラスポーツ指導員資格は、初級、中級、上級があるが、いずれの資格を取得するにも講習会の時間が長く、全てを対面で行っているため、日中仕事などのある方などが取得することは困難な状況にある。特に、教室等を 1 人で企画運営できる水準である中級、上級は、講習時間が長いことや講習の機会が少ないこともあり、人数は横ばいのままである。
- また、障害者の運動・スポーツ機会は、スポーツ施設だけではなく、自宅や施設などでも行われることが多いことから、パラスポーツ指導員のほか、ボランティアや福祉施設の関係者などをはじめとする、日頃からの障害者の運動・スポーツ機会に関わる多様な関係者との連携にも留意が必要な状況である。
- 一方で、肝心の資格を取得しても、ボランティアや教室等の補助等として活動する場がない、または、場があってもその情報が入手しづらい状況にあるとの指摘もあり、特に、若い世代の活動の場がないとされることは課題である。

＜今後の取組＞

- 上記の現状を踏まえ、障害者スポーツを支える人の活躍の場づくりとして、今後以下のような取組を実施してはどうか。
 - ・ センター機能を基盤とした、社会福祉施設や特別支援学校等の運動部活動などスポーツ指導者を必要としている場とのマッチングの促進
 - ・ 障害者スポーツに係るボランティアへの支援
 - ・ パラスポーツ指導員養成認定校におけるモデル事業の実施
 - ・ センターを中心に活動する障害者スポーツコーディネーターのモデル収集、人材育成
- 障害者スポーツ指導者の資質向上等に向けた研修機会の拡充として、以下のような取組を実施してはどうか。
 - ・ 日本パラスポーツ協会パラスポーツ指導員の座学講習等のオンデマンド化

- 全国の障害者スポーツセンターが連携して行う障害者スポーツセンターの若手職員向け研修会・情報交換会の開催
- 指導する側、される側の障害の有無に関わらず、インクルーシブなスポーツ指導環境の整備